

【 2026年3月期 第1四半期 決算のポイント 】



- ◆ 日本郵政グループ連結決算の概要について、「決算説明資料_2026年3月期第1四半期」によりご説明します。



1.

連結業績

◆ 連結業績は、日本郵政グループ連結決算としての業績を記載しています。

連結業績サマリー

- ・ 経常収益は2兆8,102億円、前年同期比743億円の増収
- ・ 経常利益は2,251億円、前年同期比137億円の増益
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は677億円、前年同期比70億円の減益

■ 2026年3月期 第1四半期 経営成績 及び 2026年3月期 通期業績予想 (億円)

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	前年同期比	通期業績予想 2026/3/31	進捗率
経常収益	27,358	28,102	+ 743 (+ 2.7%)	112,600	25.0%
経常利益	2,114	2,251	+ 137 (+ 6.5%)	10,200	22.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益(注1)(注2)	747	677	△ 70 (△ 9.4%)	3,800	17.8%
非支配株主持分を含む 四半期純利益(注3)	1,258	1,465	+ 206 (+ 16.4%)		

(注1) 次ページ以降の「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」。

(注2) 日本郵政が保有しているゆうちょ銀行株式の売却(2025年3月)に伴う持分比率の低下の影響が含まれている。

(注3) 当社の中期経営計画「JPビジョン2025+」の目標数値である、連結当期純利益に相当する利益。

- ◆ 太い線で囲んだ箇所が、2026年3月期第1四半期のグループ連結の数値です。
- ◆ グループ連結では、経常収益が743億円増加の2兆8,102億円、経常利益が137億円増加の2,251億円となりました。四半期純利益は70億円減少の677億円となり、増収減益の決算となりました。
- ◆ 四半期純利益減少の主な要因は、Aflac Incorporatedに係る持分法投資利益の減少とゆうちょ銀行株式売却に伴う持株比率の低下の影響です。

- ・ 四半期純利益は日本郵便は24億円、ゆうちょ銀行は1,048億円、かんぽ生命は346億円
- ・ 日本郵便及びゆうちょ銀行は増収増益、かんぽ生命は減収増益

■ 2026年3月期 第1四半期 経営成績 (億円)

	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	8,978	6,672	14,341
前年同期比	+ 656 (+ 7.9%)	+ 615 (+ 10.1%)	△ 313 (△ 2.1%)
経常利益	84	1,538	674
前年同期比	+ 244 (-)	+ 161 (+ 11.7%)	△ 7 (△ 1.0%)
四半期純利益	24	1,048	346
前年同期比	+ 207 (-)	+ 86 (+ 8.9%)	+ 137 (+ 65.4%)

■ 2026年3月期 通期業績予想 (億円)

	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常利益	530	6,800	2,400
(1Q進捗率)	(15.9%)	(22.6%)	(28.1%)
当期純利益	460	4,700	1,360
(1Q進捗率)	(5.3%)	(22.3%)	(25.5%)

注：各社の数値は、各社を親会社とする連結決算ベース。また、「四半期純利益」「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」及び「親会社株主に帰属する当期純利益」の数値。

- ◆ 2ページは、連結業績サマリー（主要子会社）について記載しています。
- ◆ 日本郵便は、郵便・物流事業の損益が改善したこと等により、四半期純利益は増益となりました。
- ◆ ゆうちょ銀行は、臨時損益の増加を主因に、四半期純利益は増益となりました。
- ◆ かんぽ生命は、投資信託の解約益が前年同期比減少したものの、新契約の初年度に係る標準責任準備金負担の減少や、運用環境の好転等による順ざやの増加等により、四半期純利益は増益となりました。
- ◆ 下段の記載は通期業績予想に対する進捗率です。
- ◆ グループ各社での進捗率は、経常利益で日本郵便が15.9%、ゆうちょ銀行が22.6%、かんぽ生命が28.1%、当期純利益で日本郵便が5.3%、ゆうちょ銀行が22.3%、かんぽ生命が25.5%となりました。

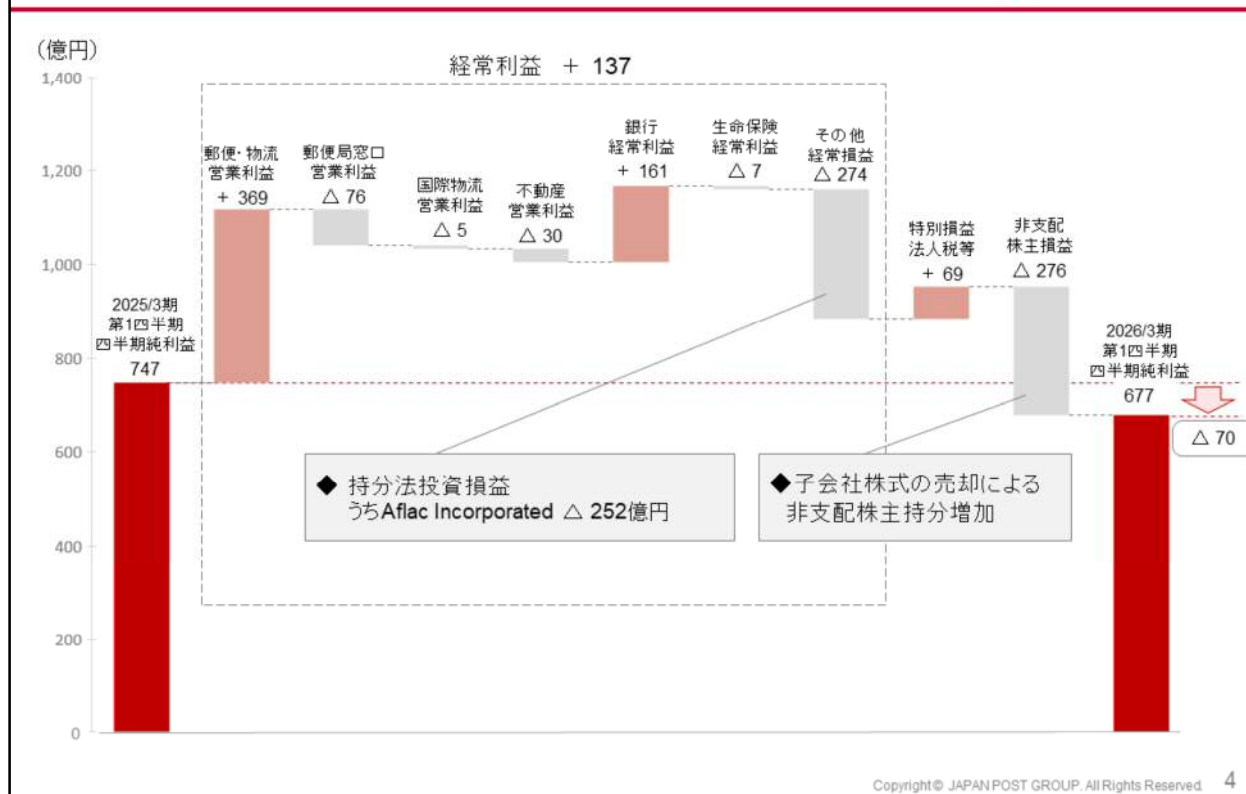
セグメント別業績

(億円)

		2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	前年同期比
郵便・物流事業セグメント	営業収益	4,783	5,709	+ 926
	営業損益	△ 364	4	+ 369
郵便局窓口事業セグメント	営業収益	2,563	2,546	△ 16
	営業利益	138	62	△ 76
国際物流事業セグメント	営業収益	1,247	1,092	△ 155
	営業損益(EBIT)	9	4	△ 5
不動産事業セグメント	営業収益	296	201	△ 95
	営業利益	85	54	△ 30
銀行業セグメント (ゆうちょ銀行)	経常収益	6,056	6,672	+ 615
	経常利益	1,377	1,538	+ 161
生命保険業セグメント (かんぽ生命)	経常収益	14,654	14,341	△ 313
	経常利益	681	674	△ 7

注: 国際物流事業セグメントはEBIT、銀行業セグメント・生命保険業セグメントは経常利益、その他は営業損益を記載。

- ◆ 3ページは、セグメント別業績について記載しています。
- ◆ 郵便・物流事業セグメントは、営業収益が926億円増加の5,709億円、営業損益が369億円増加の4億円となりました。
- ◆ 郵便局窓口事業セグメントは、営業収益が16億円減少の2,546億円、営業利益が76億円減少の62億円となりました。
- ◆ 国際物流事業セグメントは、営業収益が155億円減少の1,092億円、営業損益(EBIT)が5億円減少の4億円となりました。
- ◆ 不動産事業セグメントは、営業収益が95億円減少の201億円、営業利益が30億円減少の54億円となりました。
- ◆ 銀行業セグメント(ゆうちょ銀行)は、経常収益が615億円増加の6,672億円、経常利益が161億円増加の1,538億円となりました。
- ◆ 生命保険業セグメント(かんぽ生命)は、経常収益が313億円減少の1兆4,341億円、経常利益が7億円減少の674億円となりました。



- ◆ 4ページは、日本郵政グループ 四半期純利益の増減要因について記載しています。
- ◆ 滝グラフは、四半期純利益の前年同期からの増減分析です。
- ◆ 経常利益は、前年同期から全体で137億円増加しております。
- ◆ ただし、そのうち、右から4番目のその他経常損益は、Aflac Incorporated に係る持分法投資損益がマイナスになったことに伴い、前年同期比274億円減少しております。
- ◆ 右から2番目の非支配株主損益は、子会社株式売却による非支配株主持分の増加の影響により、前年同期比276億円減少しております。
- ◆ これらの結果、四半期純利益は、前年同期比70億円減少し、677億円となりました。

➤ Aflac Incorporated にかかる持分法投資損益

		2026/3期 第1四半期
持分法投資損益	億円	△ 24
前年同期	億円	+ 228
アフラック当期純利益	百万USD	29
持分比率	%	9.51
為替レート	円	152.60

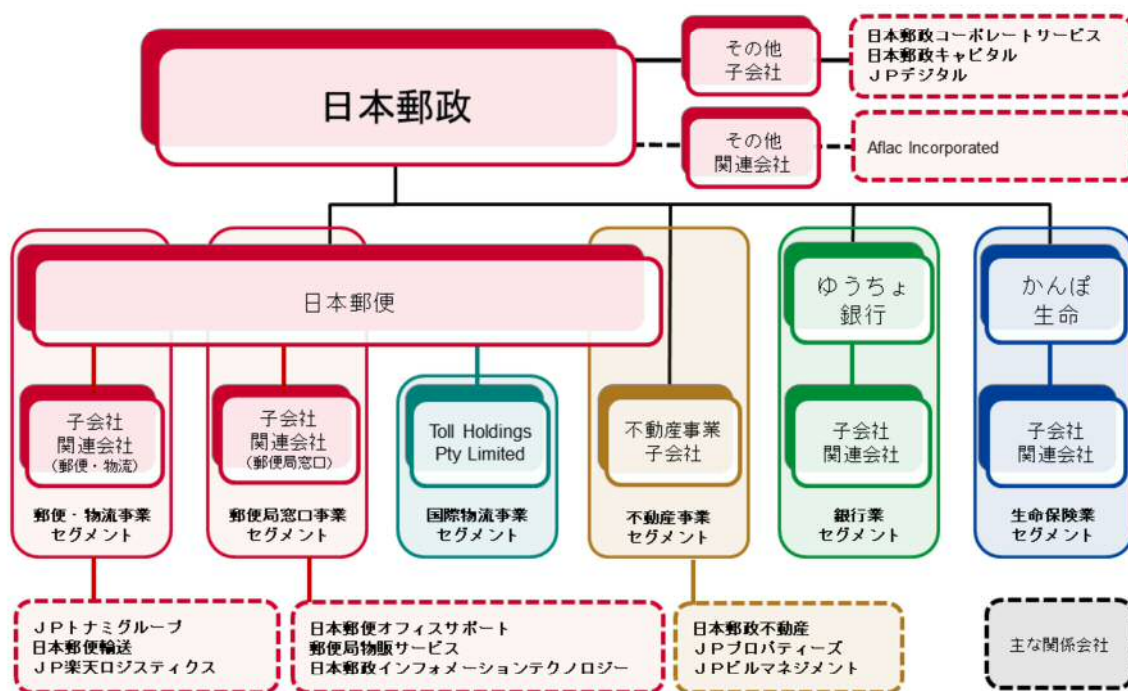
◆ 5ページは、連結業績の参考情報について記載しています。

◆ Aflac Incorporated に係る持分法投資損益について記載しております。

2.

セグメント別の状況

◆ セグメント別の状況は、事業セグメント別の業績を記載しています。

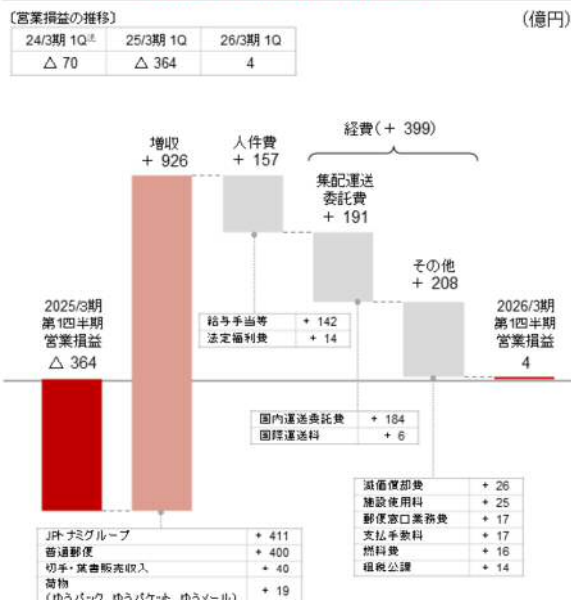


- ◆ 6ページは、グループ概要図を記載しています。
- ◆ 2025年4月に日本郵便が物流の多様なニーズに対応するため、JPトナミグループを子会社化しました。JPトナミグループ及び傘下の子会社は、「郵便・物流事業」セグメントです。

郵便・物流事業セグメント（日本郵便（連結））決算の概要 日本郵政グループ

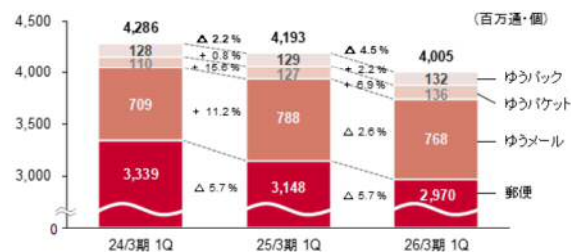
- ・取扱数量は、ゆうパック、ゆうパケットが増加したものの、郵便、ゆうメールが減少し、4.5%減少
- ・営業収益は、郵便料金の改定、JPTナミグループの連結子会社化等により、926億円増収
- ・営業損益は、人件費、集配運送委託費等の営業費用が556億円増加したため、369億円改善

営業損益の増減分析(前年同期比)



注：2025/3期から不動産事業セグメントを新設したことに伴い、2024/3期の数値を組替え。

取扱数量の推移



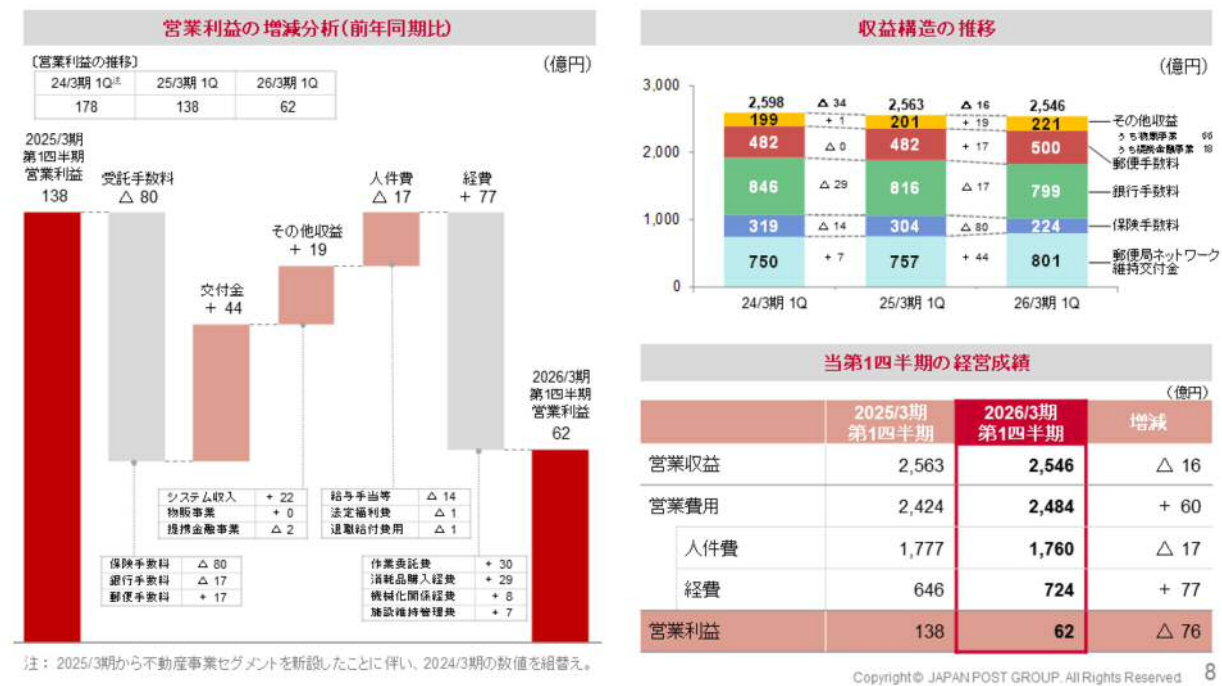
当第1四半期の経営成績

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減
営業収益	4,783	5,709	+ 926
営業費用	5,148	5,705	+ 556
人件費	3,207	3,364	+ 157
経費	1,941	2,340	+ 399
営業損益	△ 364	4	+ 369

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 7

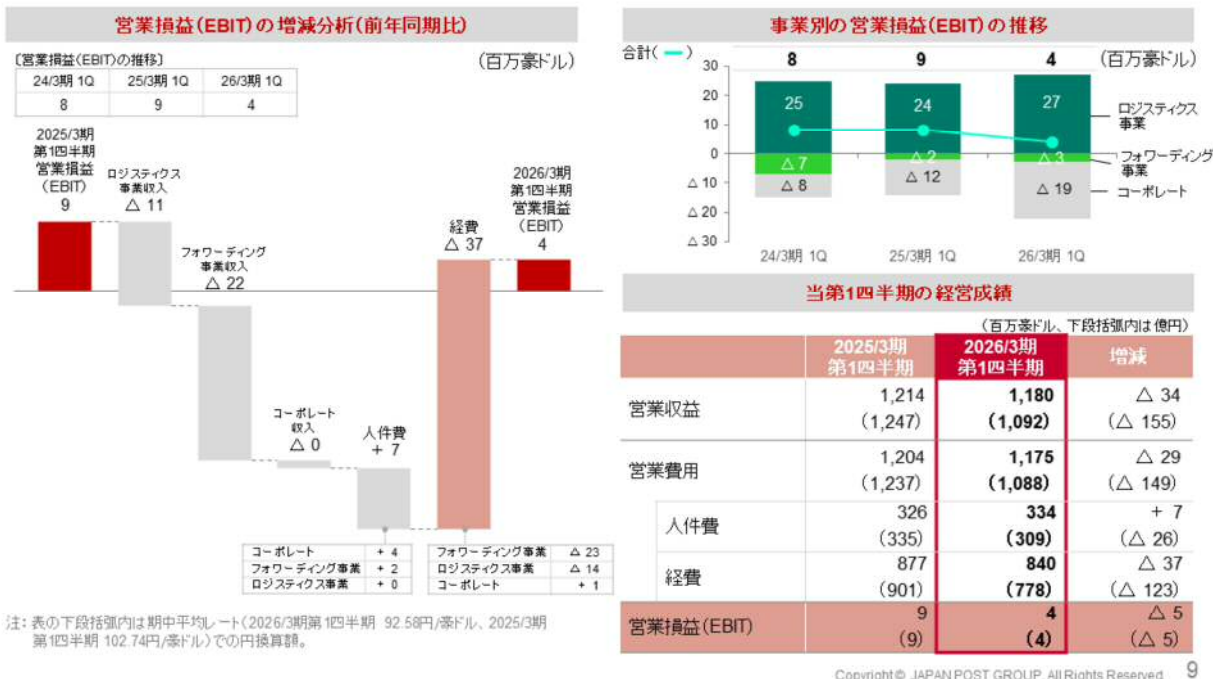
- ◆ 7ページは、郵便・物流事業セグメント（日本郵便（連結））について記載しています。
- ◆ 右上の棒グラフは、営業収益に直結する郵便物等の取扱数量の推移です。
- ◆ 総引受物数は40億5百万通・個で、前年同期比で4.5%の減少となりました。
- ◆ ゆうパック、ゆうパケット、ゆうメール、郵便の取扱数量の増減率は次の通りです。
 - ・ ゆうパック : 2.2%の増加
 - ・ ゆうパケット : 6.9%の増加
 - ・ ゆうメール : 2.6%の減少
 - ・ 郵便 : 5.7%の減少
- 左の滝グラフは、営業損益の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目、営業収益はデジタル化の進展等に伴い郵便物が減少したものの、郵便料金改定により単価が改善したこと等により、前年同期比で926億円の増収となりました。
- 営業費用は、引き続きコストコントロールの取組等を進めたものの、左から3番目の人件費が157億円、左から4番目の集配運送委託費が191億円、それぞれ増加したこと等により、全体で556億円増加となりました。
- なお、これらに加えて、当第1四半期決算からJPTナミグループを連結子会社化したことから、営業収益及び営業費用が増加しました。
- ◆ これらの結果、営業損益は前年同期より改善し、4億円の営業利益となりました。

- ・営業収益は、銀行手数料、保険手数料の減少が継続し、16億円減収
- ・営業利益は、減収に加えて経費の増加等により、76億円減益



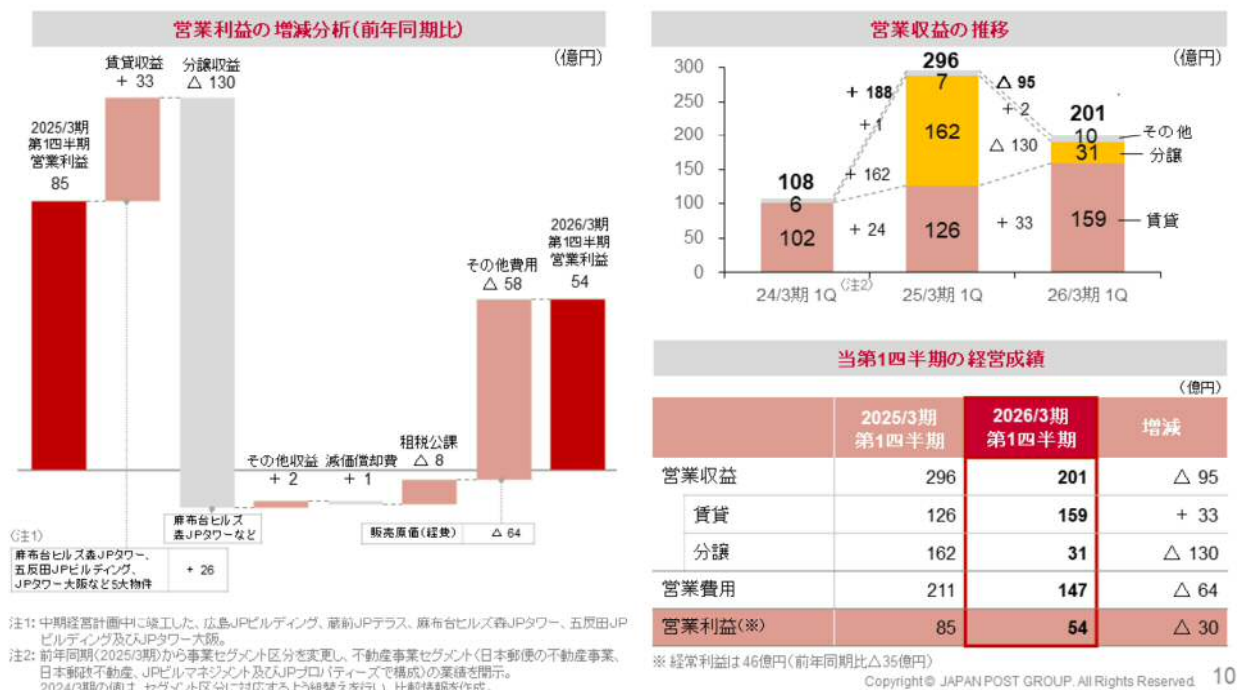
- ◆ 8ページは、郵便局窓口事業セグメント（日本郵便（連結））について記載しています。
- ◆ 右上は収益構造の推移を示した棒グラフです。
- ◆ 営業収益は、銀行手数料、保険手数料の減少が継続し、前年同期比で16億円の減収となりました。
- 左の滝グラフは、営業利益の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目の受託手数料は、金融2社からの手数料の減少等により80億円の減収となりました。
- 営業費用は、右から3番目の人件費は減少したものの、右から2番目の経費が増加し、全体で60億円の増加となりました。
- ◆ これらの結果、営業利益は、前年同期比76億円減少し、62億円となりました。

- ・ 営業収益は、フォワーディング事業、ロジスティクス事業の取扱量の減少等により、155億円減収
- ・ 営業損益(EBIT)は、概ね前年同期と同水準



- ◆ 9ページは、国際物流事業セグメント（日本郵便（連結））について記載しています。
- ◆ 右上の棒グラフは、事業別の営業損益(EBIT)の推移を示すものです。
- ◆ ロジスティクス事業の営業損益(EBIT)が改善したものの、コーポレートの営業損益(EBIT)が減益となり、全体では概ね前年同期と同水準となりました。
- 左の滝グラフは、営業損益(EBIT)の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目のロジスティクス事業収入及び3番目フォワーディング事業収入は、取扱量の減少等により減収となりました。
- 営業費用は、右から2番目の経費でフォワーディング事業とロジスティクス事業の経費が減少し、全体で29百万豪ドルの減少となりました。
- ◆ 右の表は国際物流事業の営業損益(EBIT)の前年同期比較です。
- ◆ 豪ドルベースでは次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 1,180百万豪ドル(34百万豪ドル減少)
 - ・ 営業費用 : 1,175百万豪ドル(29百万豪ドル減少)
 - ・ 営業損益(EBIT) : 4百万豪ドル(5百万豪ドル減少)
- ◆ 為替の影響を含む円ベースでは次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 1,092億円(155億円減少)
 - ・ 営業費用 : 1,088億円(149億円減少)
 - ・ 営業損益(EBIT) : 4億円(5億円減少)

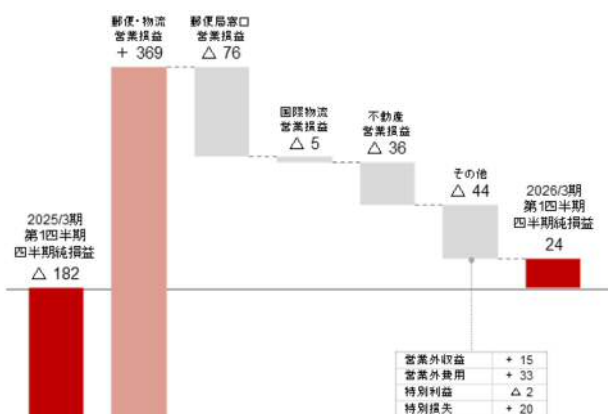
- ・ 営業収益は、賃貸収益の増加、分譲収益の減少により95億円減収
- ・ 営業利益は、30億円減益



- ◆ 10ページは、不動産事業セグメントについて記載しています。
- ◆ 右上は営業収益の推移を示した棒グラフです。
- 左の滝グラフは、営業利益の前年同期からの増減分析です。
- 賃貸収益は、JPタワー大阪などの稼働率が上昇したこと等により、33億円の増収となりました。
一方、分譲収益は、主として麻布台ヒルズ森JPタワーの分譲住宅を長期的かつ計画的に販売しているところ販売戸数の多寡の影響により、130億円の減収となり、営業収益は95億円の減収となりました。
- 営業費用は、収益に連動した販売原価(経費)の減少等により、64億円の減少となりました。
- ◆ これらの結果、営業利益は30億円の減益となり、54億円となりました。

四半期純損益の増減分析(前年同期比)

〔営業損益の推移〕			〔四半期純損益の推移〕		
24/3期 1Q	25/3期 1Q	26/3期 1Q	24/3期 1Q	25/3期 1Q	26/3期 1Q
96	△ 147	115	93	△ 182	24



当第1四半期の経営成績

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減
営業収益	8,305	8,947	+ 641
営業費用	8,453	8,831	+ 378
人件費	5,322	5,436	+ 113
経費	3,130	3,394	+ 264
営業損益	△ 147	115	+ 263
経常損益	△ 160	84	+ 244
特別損益	2	△ 20	△ 23
税引前四半期純損益	△ 157	63	+ 221
四半期純損益	△ 182	24	+ 207

Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 11

- ◆ 11ページは、日本郵便（連結）について記載しています。
- 左の滝グラフは、四半期純損益の前年同期からの増減分析です。
- 左から2番目の郵便・物流事業が大幅に増益となっており、その結果、四半期純損益も増益となっています（黒字転換）。
- ◆ 右の表は、日本郵便全体の四半期純損益の前年同期比較です。
- ◆ 主な項目の増減は次の通りです。
 - ・ 営業収益 : 8,947億円(641億円増加)
 - ・ 営業損益 : 115億円(263億円増加)
 - ・ 四半期純損益 : 24億円(207億円増加)

- ・ 四半期純利益は1,048億円、86億円の増益

当第1四半期の経営成績(連結)

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減
連結粗利益	3,190	2,629	△ 560
資金利益	2,586	2,322	△ 263
役務取引等利益	393	411	+ 17
その他業務利益	209	△ 104	△ 314
うち外国為替売買損益	212	△ 103	△ 316
うち国債等債券損益	△ 3	△ 1	+ 1
経費（臨時処理分を除く）	2,380	2,407	+ 26
一般貸倒引当金繰入額	0	0	+ 0
連結業務純益	809	222	△ 586
臨時損益	567	1,316	+ 748
経常利益	1,377	1,538	+ 161
四半期純利益	962	1,048	+ 86

資金利益の内訳(単体)

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減
資金利益	2,586	2,287	△ 298
資金運用収益	4,575	4,524	△ 51
資金調達費用	1,989	2,236	+ 247

貯金残高(単体)



Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 12

- ◆ 12ページは銀行業セグメントについて記載しています。
- ◆ 左の表がゆうちょ銀行(連結)の四半期純利益の前年同期比較です。
- ◆ 連結粗利益は、資金利益が263億円減少、その他業務利益が314億円減少したことを主に、前年同期比560億円減少の2,629億円となりました。
- ◆ 臨時損益は、プライベートエクイティファンド等からの収益増加に加え、株式のリスク調整オペレーションに伴う売却益の増加により、前年同期比748億円増加の1,316億円となりました。
- ◆ これらの結果、経常利益は、前年同期比161億円増加の1,538億円、四半期純利益は、同86億円増加の1,048億円となりました。
- ◆ 連結粗利益の主な内訳として、ゆうちょ銀行(単体)の資金利益の内訳を右の表に記載しています。ゆうちょ銀行(単体)の資金利益は、外債投資信託からの収益減少等により、前年同期比298億円減少の2,287億円となりました。

・ 四半期純利益は346億円、137億円の増益

当第1四半期の経営成績(連結)

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減
経常収益	14,654	14,341	△ 313
経常費用	13,973	13,667	△ 305
経常利益	681	674	△ 7
特別損益	△ 213	165	+ 378
価格変動準備金戻入額 注	△ 213	167	+ 380
契約者配当準備金繰入額	171	362	+ 190
四半期純利益	209	346	+ 137
新契約年換算保険料 (個人保険)	638	268	△ 369
保有契約年換算保険料 (個人保険)	28,558	28,028	△ 529

注: 符号がプラスの場合は戻入を、マイナス(△)の場合は繰入を示す。

(参考) 経常利益の内訳(単体)

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減
基礎利益	434	920	+ 485
キャピタル損益	299	△ 195	△ 495
臨時損益	△ 58	△ 40	+ 17
経常利益	675	683	+ 8

契約の状況(個人保険)



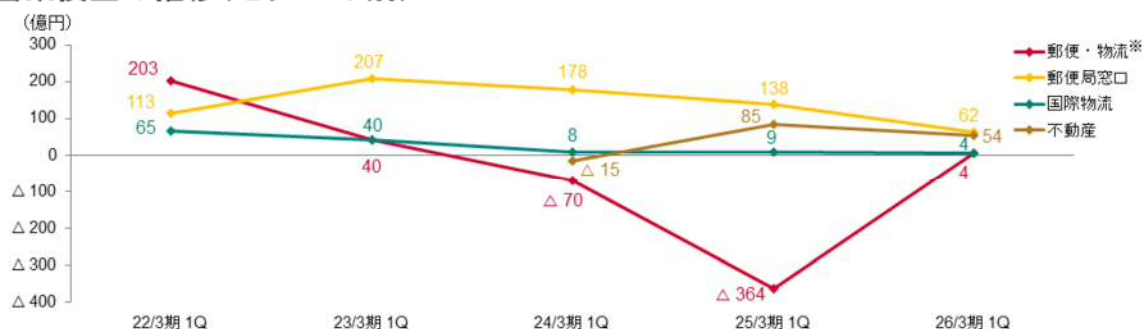
- ◆ 13ページは生命保険業セグメントについて記載しています。
- ◆ 左の表がかんぽ生命(連結)の前年同期比較、右下の表が契約の状況(個人保険)です。
- ◆ 主な項目の増減は次の通りです。
 - ・ 経常収益 : 1兆4,341億円(313億円減少)
 - ・ 経常利益 : 674億円(7億円減少)
 - ・ 四半期純利益 : 346億円(137億円増加)
- ◆ 四半期純利益は、投資信託の解約益が前年同期比減少したものの、新契約の初年度に係る標準責任準備金負担の減少や、運用環境の好転等による順ざやの増加等により、前年同期比137億円の増益となりました。
- ◆ 新契約年換算保険料は、減少となりました。
- ◆ 保有契約件数は、減少となりました。

➤ 2026年3月期 通期業績予想の進捗率（セグメント別）

（億円）

	郵便・物流事業 セグメント	郵便局窓口事業 セグメント	国際物流事業 セグメント	不動産事業 セグメント
営業利益予想	290	40	130	180
（1Q進捗率）	（1.7%）	（155.7%）	（3.2%）	（30.2%）

➤ 営業損益の推移（セグメント別）



注：国際物流事業セグメントはEBITを記載。銀行業セグメント・生命保険業セグメントはP3を参照。

※点呼業務不備事案への対応に伴う費用

2025年6月25日の一般貨物自動車運送事業の許可の取消処分への対応に伴い、今後の郵便・物流事業の損益への影響が見込まれますが、このうち、現時点で確度が高い集配運送委託費の増額は年間65億円程度と見込んでいます。

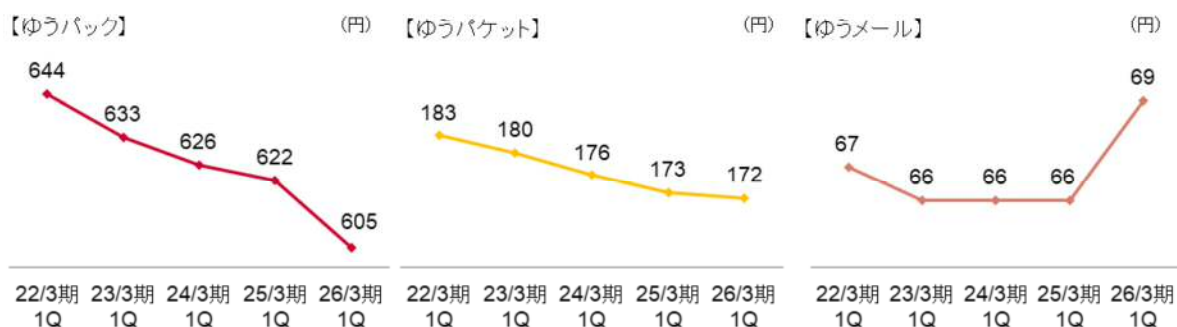
◆ 14～15ページはセグメント業績関連の参考情報を記載しています。

◆ 上の表が通期業績予想の進捗率（セグメント別）です。郵便・物流事業セグメントが1.7%、郵便局窓口事業セグメントが155.7%、国際物流事業セグメントが3.2%、不動産事業セグメントが30.2%となりました。

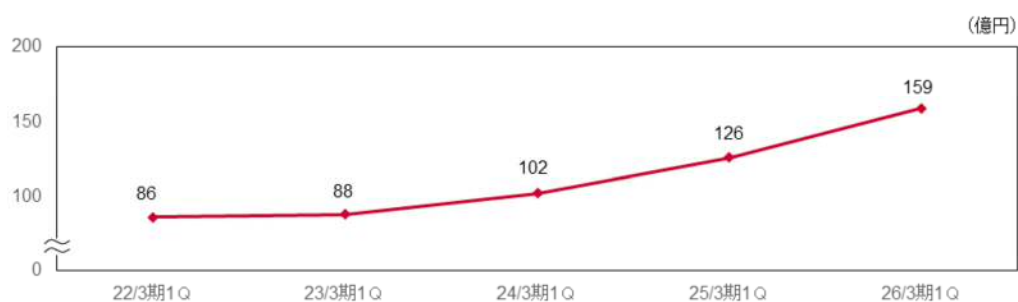
◆ 下のグラフが営業損益の推移（セグメント別）です。郵便・物流事業セグメントが増益、郵便局窓口事業セグメントと国際物流事業セグメントと不動産事業セグメントで減益となっております。

【参考情報】セグメント業績関連（2）

➤ 【郵便・物流セグメント】ゆうパック等の平均単価の推移



➤ 【不動産事業セグメント】賃貸収益の推移



Copyright © JAPAN POST GROUP. All Rights Reserved. 15

- ◆ 上の表が【郵便・物流セグメント】ゆうパック等の単価の推移です。「ゆうパック」は605円、「ゆうパケット」は172円となりました。
- ◆ 下の表が【不動産事業セグメント】賃貸収益の推移です。賃貸収益は每期積み上がってきています。

3.

資料編

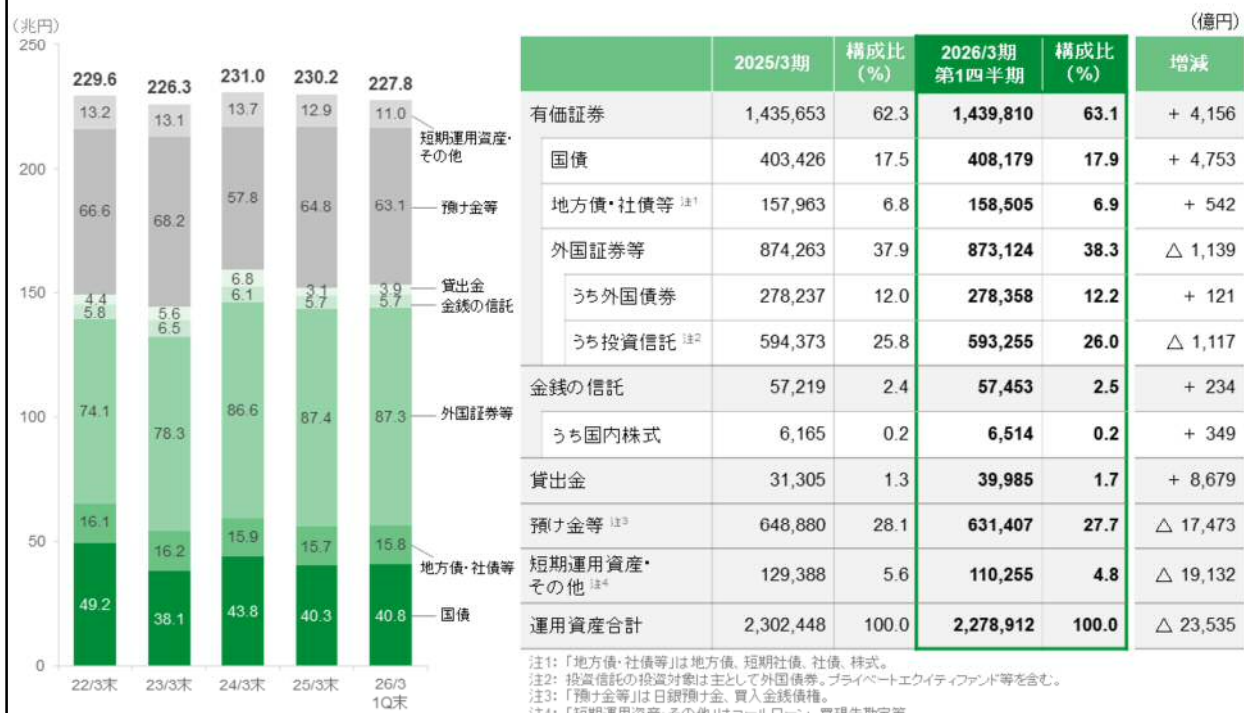
要約連結貸借対照表

(億円)

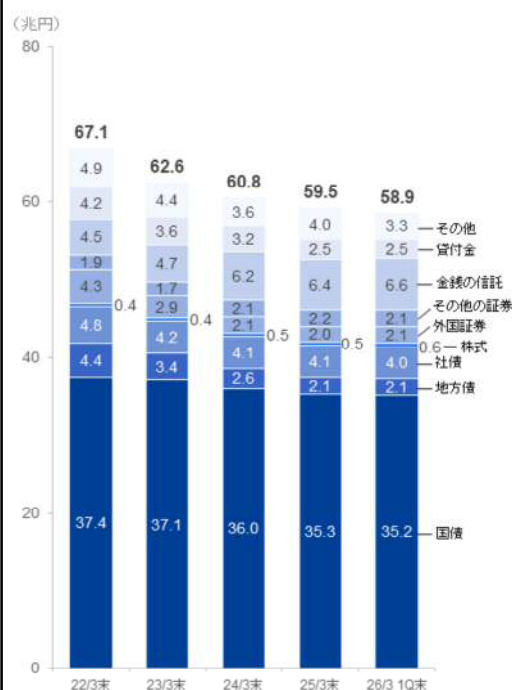
	2025/3期	2026/3期 第1四半期	増減		2025/3期	2026/3期 第1四半期	増減
現金預け金	671,222	651,409	△ 19,813	貯金	1,881,375	1,888,867	+ 7,491
コールローン	21,650	15,500	△ 6,150	売現先勘定	315,019	283,378	△ 31,641
買現先勘定	90,684	79,505	△ 11,179	保険契約準備金	501,656	496,101	△ 5,554
金銭の信託	121,820	124,434	+ 2,614	債券貸借取引受入担保金	20,046	19,679	△ 367
有価証券	1,909,383	1,911,160	+ 1,777	借入金	28,328	28,720	+ 392
貸出金	55,840	64,365	+ 8,525	退職給付に係る負債	20,308	20,620	+ 312
有形固定資産	32,590	33,341	+ 750	負債の部合計	2,818,601	2,786,375	△ 32,225
無形固定資産	3,238	3,296	+ 58				
繰延税金資産	11,819	10,718	△ 1,100	純資産の部合計	152,895	154,105	+ 1,209
資産の部合計	2,971,496	2,940,481	△ 31,015				
				負債及び純資産の部合計	2,971,496	2,940,481	△ 31,015

- ◆ 16ページは日本郵政グループ要約連結貸借対照表を記載しています。
- ◆ 資産の部合計が3.1兆円減少の294.0兆円、負債の部合計が3.2兆円減少の278.6兆円、純資産の部合計が0.1兆円増加の15.4兆円となりました。

ゆうちょ銀行（単体）資産運用の状況



- ◆ 17ページは、ゆうちょ銀行（単体）の資産運用の状況です。
- ◆ 運用資産は総額で、2.3兆円減少の227.8兆円となりました。
- ◆ 国債は0.4兆円増加の40.8兆円となり、運用資産合計における構成比は17.9%となりました。
- ◆ 外国証券等は0.1兆円減少の87.3兆円となり、構成比は38.3%となりました。

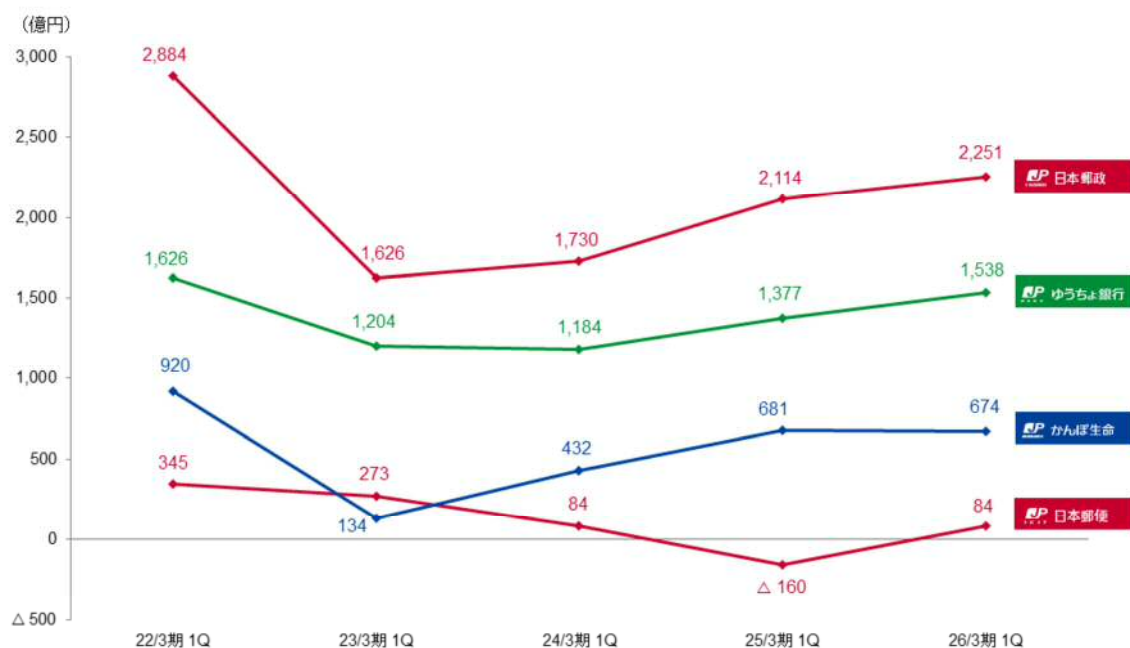


(億円)

	2025/3期	構成比 (%)	2026/3期 第1四半期	構成比 (%)	増減
有価証券	465,287	78.1	463,576	78.7	△ 1,711
国債	353,903	59.4	352,658	59.8	△ 1,245
地方債	21,234	3.6	21,083	3.6	△ 151
社債	41,260	6.9	40,378	6.9	△ 881
株式	5,947	1.0	6,380	1.1	+ 432
外国証券	20,245	3.4	21,078	3.6	+ 833
その他の証券	22,696	3.8	21,997	3.7	△ 698
金銭の信託	64,600	10.8	66,980	11.4	+ 2,380
うち国内株式	30,774	5.2	33,384	5.7	+ 2,609
貸付金	25,300	4.2	25,146	4.3	△ 154
その他	40,368	6.8	33,597	5.7	△ 6,770
総資産	595,556	100.0	589,300	100.0	△ 6,256

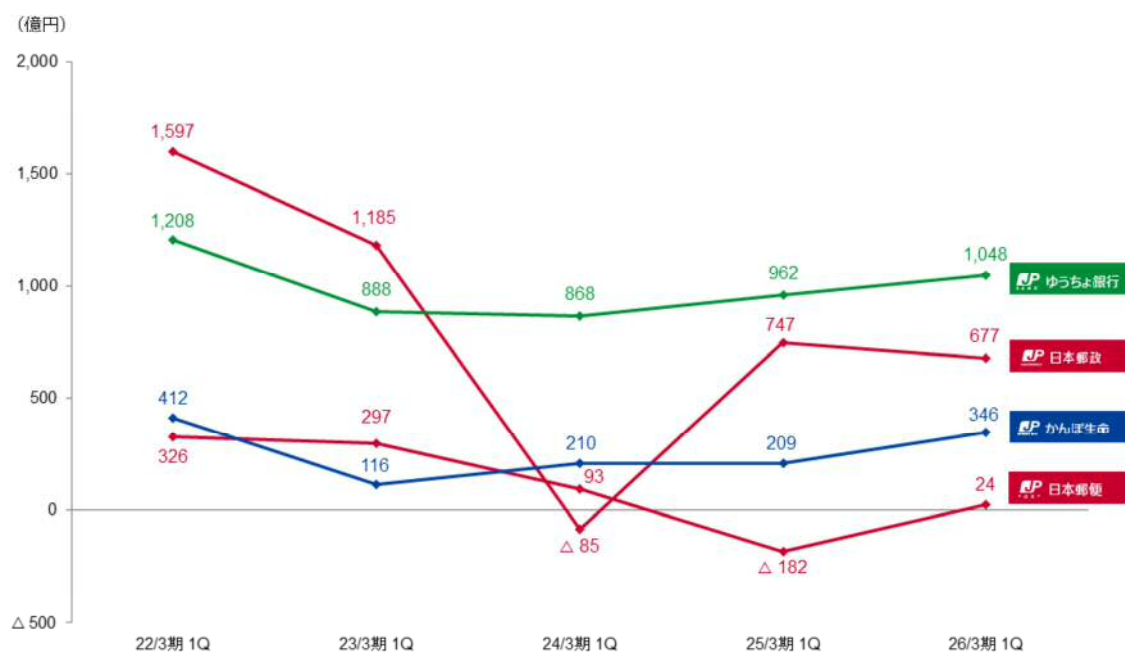
- ◆ 18ページは、かんぽ生命の資産運用の状況です。
- ◆ 運用資産は総額で、0.6兆円減少の58.9兆円となりました。
- ◆ 総資産のうち、約8割を占める有価証券は、0.1兆円減少の46.3兆円となりました。
- ◆ 有価証券の大部分は国債であり、0.1兆円減少の35.2兆円となっています。
- ◆ 上記の他、その他が現金及び預貯金の減少等により、0.6兆円減少の3.3兆円となっています。

経常損益の推移



- ◆ 19ページは、主要3社及びグループ連結の経常損益の過去5期分の推移をグラフ化しています。
- ◆ 経常損益は、グループ連結、ゆうちょ銀行、日本郵便が増益、かんぽ生命が減益となっています。

四半期純損益の推移



- ◆ 20ページは、主要3社及びグループ連結の四半期純損益の過去5期分の推移をグラフ化しています。
- ◆ 四半期純損益は、ゆうちょ銀行、かんぽ生命、日本郵便が増益、グループ連結が減益となっています。

本資料に記載されている通期業績予想等将来に関する記述は、当社が現在把握している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。実際の業績等は、国内外の金融政策の変更や景気変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、法規制の変更等様々な要因により大きく異なる可能性があります。